# 東裏遺跡

東裏団地地点·町道柴山線地点 発掘調査報告書

一縄文早期・沈線文系土器の遺跡 一

2004

長野県信濃町教育委員会

# 東裏遺跡

東裏団地地点·町道柴山線地点 発掘調査報告書

一 縄文早期・沈線文系土器の遺跡 ―

2 0 0 4

長野県信濃町教育委員会

## 目 次

目	次		Ⅱ 東裏遺跡町道柴山線地点の発掘調査	8
例	言		1 概要	8
			2 遺跡の位置	8
Ι	東裏遺跡東裏団地地点の発掘調査	1	3 調査の概要	8
1	概要	1	4 遺物の出土状況	8
2	遺跡の位置	1	5 出土遺物	8
3	。調査の概要	1	1)縄文土器など	8
4	遺物の出土状況・層位	3	2) 石器·····	9
5	出土遺物	3	3) その他	9
	1) 縄文土器	3	6 まとめ	9
	2) 石器	3		
	3) その他	3	写真図版1	.5
6	5 まとめ	3	報告書抄録	.5

## 例

- 1. 本書は、平成5年度町道東裏団地線建設工事および 平成11年度町道柴山線建設工事にかかわる東裏遺跡 の発掘調査報告書である。
- 2. 調査は、信濃町教育委員会が、平成5年9月20日から平成5年11月5日、ならびに平成11年4月23日から平成11年6月8日にかけて実施した。

整理作業は、それぞれ平成5年、および平成11年からはじめた。

報告書作成のための作業は、平成16年2月29日まで におこなった。

3. 本書は、調査によって確認された遺物とその出土状況を中心に、基礎資料を提示することに重点をおいた。

### 言

- 4. 本書の編集・執筆は、中村由克がおこなった。編集 にあたっては、佐藤ユミ子、今井美枝子・長谷川悦 子の援助をうけた。
- 5. 調査によってえられた諸資料は、野尻湖ナウマンゾ ウ博物館で保管している。

出土資料の注記番号は、次のとおりである。

東裏遺跡 東裏団地地点 93 H D 東裏遺跡 町道柴山線地点 99 H U

6. 発掘調査・報告書作成にあたり、下記の諸氏にご指導・ご援助いただいた。記して謝意を表する次第である(敬称略)。

縄文土器:中沢道彦、小笠原永隆

## I 東裏遺跡東裏団地地点の発掘調査

### 1 概要

遺跡所在地 長野県上水内郡信濃町大字柏原字東裏

調査主体 信濃町教育委員会

調査面積 700 m²

調査期間 1993 (平成5) 年9月20日~11月5日

調査目的 宅地造成地内の道路工事に伴う発掘調査

### 2 遺跡の位置

柏原の南部、伊勢見山の南麓を南西に流れる細谷沢と 鳥居川の合流点付近に発達する小規模な段丘面に立地す る。南側には信濃町役場方面から小さな沢が開析してお り、さらに南隣のやせ尾根状の段丘先端部には東裏城跡 が位置している。

### 3 調査の概要

### 1)調査体制

川沿いの畑地で住宅団地を造成し、その中央に町道東 裏団地線を建設することになり、発掘調査をおこなった。

調査主体者 信濃町教育委員会 教育長 片山 幹威

事務局次 長

山崎 功一

係 長文化財担当

松木 武夫 渡辺 哲也

貢、福沢キサエ、

調査担当者 中村 由克

調査参加者 新井のぞみ、今井美枝子、木村キミ子、

片山 トヨ、小林ヨシエ、佐藤ユミ子、 中村ヨネ子、中村 正枝、中村 光江、

渡辺 稔、山下 紀代

永原シズエ、東

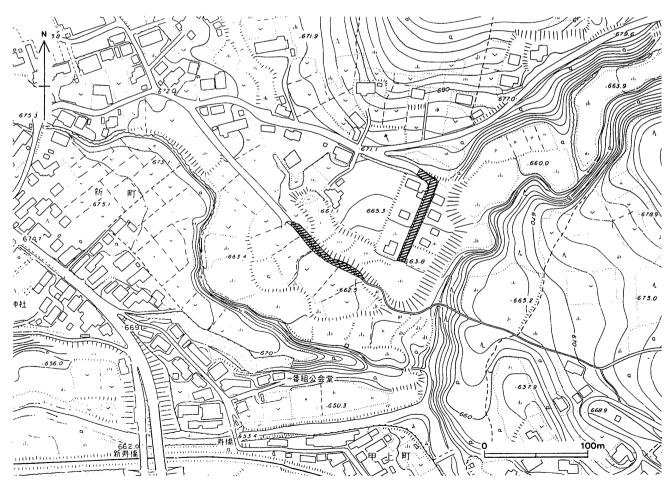


図1 東裏遺跡の調査位置 左: 町道柴山線地点、右: 東裏団地地点

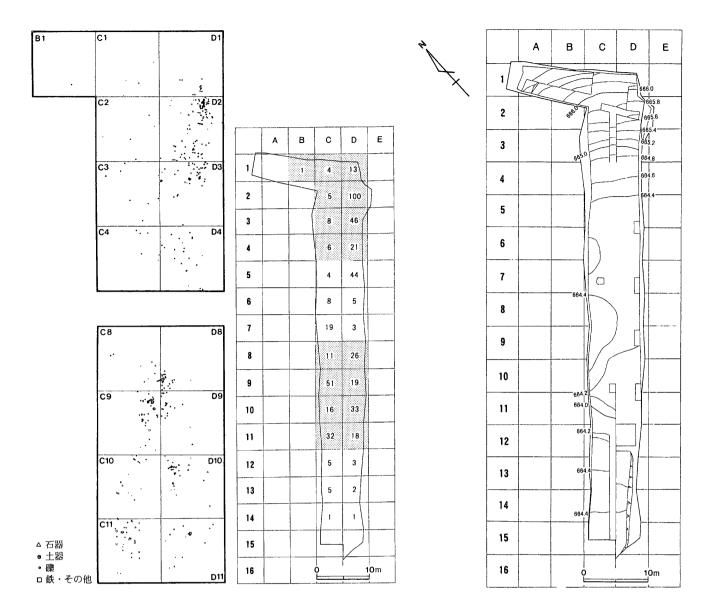


図2 東裏団地地点の出土遺物の分布

図3 東裏団地地点の調査区

表1 東裏遺跡東裏団地地点の出土遺物点数

(単位:点)

種類	石 器 (剥片石器)	剥片·石核	礫石器	縄文土器	江戸時代末 染 付	明治時代初 染 付	近・現代 陶磁器	礫・その他	総計
点数	15	19	9	391	3	6	9	58	510

#### 2)調査経過

9月20日 入口部分の試掘。柏原黒色火山灰層下部より 縄文土器が出土し、本格的な調査に入ること を決定。調査地を拡大。上ノ原遺跡(第2次) と並行して調査。

10月12日 上ノ原遺跡が終了し、東裏団地を増員。調査 地の拡大。

10月21日 七ツ栗遺跡を着手。並行して調査開始。

10月27日 発掘作業がほぼ終了。平面図、記録、測量。

11月5日 現場の撤収、七ツ栗遺跡に引越し。

### 4 遺物の出土状況・層位

### 1) 出土状況

北北東-南南西方向の道路の2か所で遺物集中区が確認された。遺構は一切伴わず、多くの遺物が散在していた。D2・3 グリッドでは、縄文土器115点、石鏃、特殊磨石、石皿などが出土した。また、C9・D8 グリッドでは、縄文土器72点が出土したが、石器は少なかった。

東裏団地の発掘では、総計510点の出土品がえられた。 縄文土器391点、石器43点、陶磁器18点、その他(礫など) 58点であった。

### 2)層位

上位より表土は35cmの黒色火山灰質土壌 (耕作土)、49 cmの柏原黒色火山灰層、この下位にシルト層を主体とする上部野尻湖層相当の水成層が堆積。シルト層のトップから13cmの付近に厚さ6cmのガラス質火山灰のレンズがあり、ヌカ I 火山灰層 (AT) に対比される。これより下位には粘土層が分布する。

縄文時代の遺物は、黒色火山灰層の下部に集中して出 土した。

### 5 出土遺物

### 1)縄文土器

出土土器のほとんどは縄文時代早期の沈線文系土器である。沈線文と貝殼腹縁文を施文した土器と無文のものが大半で、ほぼ1時期に属す一括資料と思われる。概して薄手で、よい焼き上がりの土器であるが、小片に割れ、表面は水の作用による著しい風化を受け、文様が剥落し

て確認できないものも多い。

1は口縁部が外側に開いたあと、キャリパー状にすぼまる器形である。口縁にそって太い沈線で上下に区画され、その中にクランク状のモチーフが沈線でえがかれている。区画内には貝殻腹縁文が斜位に充填されている。胴下部は無文である。器形、施文、文様ともに東裏団地の基本的な特徴を有するが、文様には以下のような要素のものもみられる。1以外のものは小破片が多く、全体の文様構成等は不明な点が多い。

 $3\sim6$ 、23、24は平行沈線間に波状沈線文をえがくものである。

8、14、16は曲線文をえがくものである。

9、10、15、23~26は横位、縦位、斜位の沈線文で幾何学的な区画をおこない、内部に貝殻腹縁文を充填するものである。

#### 2) 石器

石器は34点出土した。石鏃3点、石鏃未成品5点、スクレイパー5点、両面加工のスクレイパー1点、クサビ形石器2点、特殊磨石3点、磨石2点、石皿4点などがある。石鏃は大形のものが含まれる。黒曜石製のものは、長さ2.8cm、幅広で抉りが浅く、素材剥片の剥離面を大きく残存するものである。チャート製のものは、長さ3.0cm、基部の抉りが深い方形をした鍬形鏃である。ともに、早期に特徴的な形態である。

### 3) その他

江戸時代末の染付3点、明治時代初期の型紙摺絵の染付6点のほか、近現代の陶磁器9点、鉄製品などが出土している。

### 6 まとめ

この地点は、町道針の木線より1段低い段丘面で桑畑になっていた。旧地主の中村寛氏が石鏃を13点採集し、保管されていたことから遺跡であることが判明した(中村、1988)。

住宅団地の造成で、この畑地全域が埋め立てられることになり、段丘中央部に町道が計画され、その部分のみ発掘調査された。この結果、約7000年前の縄文時代早期の中葉、沈線文土器期の土器集中区2か所が確認された。

東裏遺跡の東裏団地地点の出土土器は、信濃町の沈線 文系土器としては初期のものがまとまってあり、縄文土 器の変遷を知るうえで大変重要な成果である。調査当初 は、信濃町で沈線文系土器の存在が知られてなく、長ら くこの土器の位置づけが不明であったが、大道下遺跡、 上山桑 A 遺跡などの発掘で後続と思われる沈線文系の土 器が出土し、また長野県内でもこの時期に対する認識が 深まったため、東裏団地地点出土の縄文土器の位置づけ がようやく定まるところとなった。

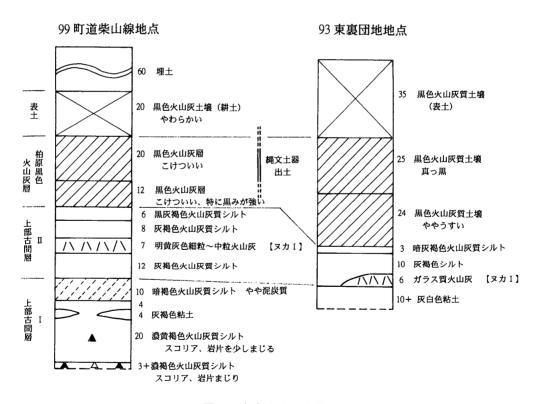


図4 東裏遺跡の地層

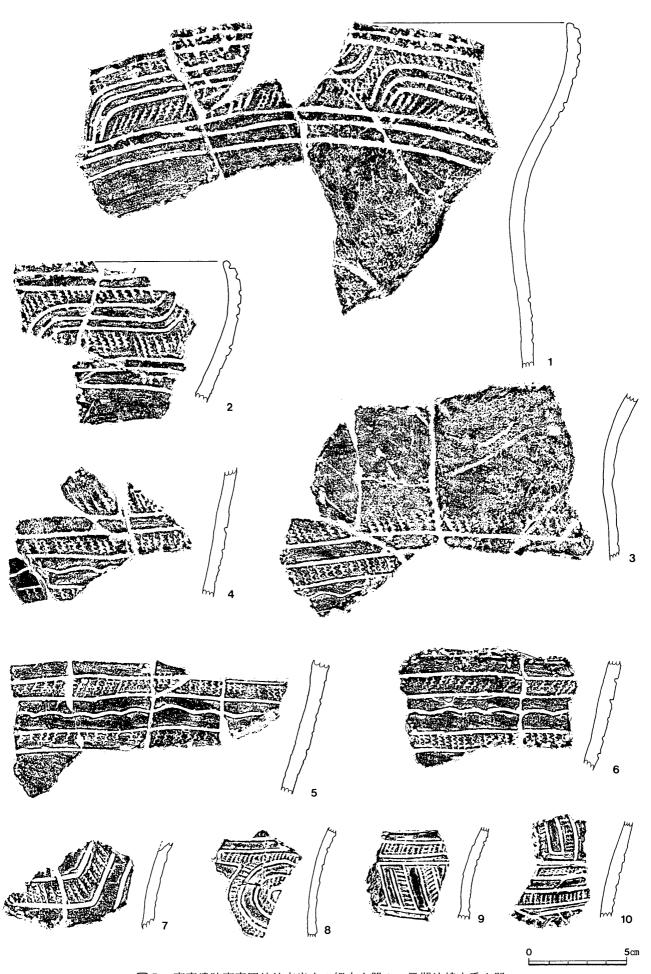


図5 東裏遺跡東裏団地地点出土の縄文土器1 早期沈線文系土器

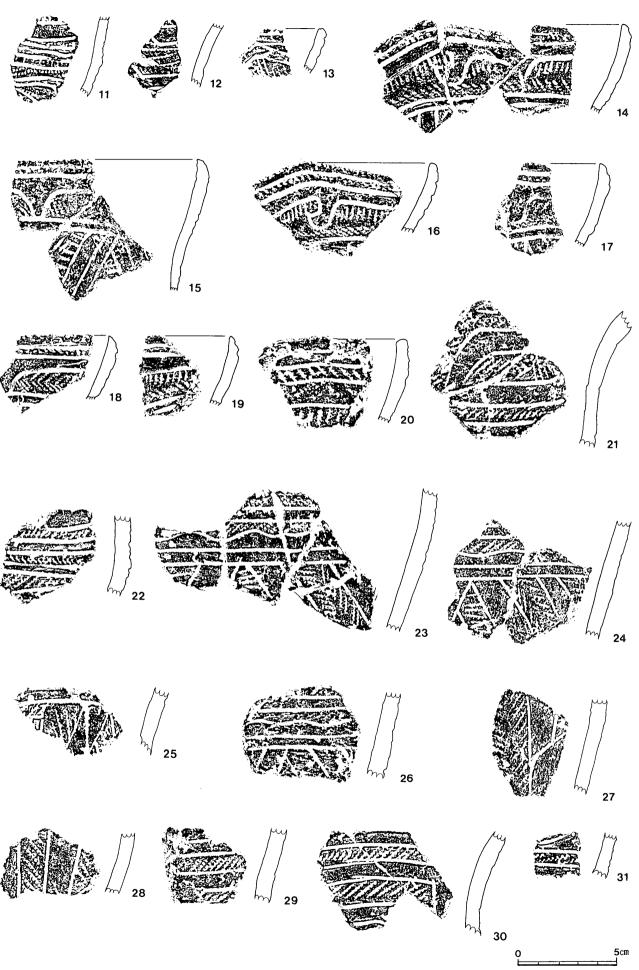


図6 東裏遺跡東裏団地地点出土の縄文土器2 早期沈線文系土器

表 2 東裏遺跡東裏団地地点出土の縄文土器一覧

No	時期	文	様・文様要素	159	胎土		繊維混入量	遺物番号	備考
1	早期後葉	ンナ x自っケ T	<b>連鎖空 日期順線空</b>	显	砂粒の種類		ごく微量	02110 DE 2 2 4 5 6 12 21	
1		沈線文 I	沈線文、貝殼腹縁文 	有小	qt、ch、ho、灰			93HD·D 5 - 2 、 3 、 4 、 5 、 6 、 13 、 21	
2	,		"	少	白、qt、ho、ch	<del></del>	"	93HD·D4 - 9 ,10,93HD·D5 - 1	
3	"	"		有 ———	ch、qt、ho、白		"	93HD · D 5 — 6 他	
4	"	"	"	"	qt、白、ho、灰		"	93HD · D 5 - 15、38	
5	"	"		"	qt、ch、灰、ho		"	93HD · D 5 - 8 、 11 、 34 、 35 、 44	
6	"	"	,	"	,,		"	93HD · D 5 -27	
7	"	"	"	少	ho、白、qt、ch			93HD · D 2 -57、75	
8	"	"	"	"	白、灰、qt、ho			93HD · C11 – 26	
9	"	"	"	"	灰、qt、ho		少	93HD · C11-31	
10	"	"	,,	"	灰、qt、白、ho		<i>"</i>	93HD · C11 – 28、29	
11	"	,,	"	"	qt、ho、白		ごく微量	93HD · C13 – 4	
12	"	"	"	"	qt、ho、灰		"	93HD · C13 – 1	
13	"	"	"	"	灰、qt、ho		"	93HD · C12 – 3	
14	"	"	"	有	qt≫⊟			93HD · D 2 - 28、29、51	高温型石英
15	"	"	"	"	qt		ごく微量	93HD · D 2 -33、94	,
16	"	"	"	少~有	qt≫ho、白		"	93HD · D 2 −35	"
17	"	"	"	少	qt≫白		"	93HD · D 2 −40	"
18	"	"	"	"	"		少	93HD · D 2 −27	"
19	"	"	"	"	"		ごく微量	93HD · D 2 −26	"
20	"	"	"	有	白、灰、qt、bt		"	93HD · C11-20	
21	"	"	"	"	灰>ho、qt	砂	"	93HD · D 3 - 35、36、45	
22	"	"	"	"	ch、灰、ho、qt	砂	"	93HD · D 3 −17	
23	"	"	*	"	ch、灰、qt、ho	砂	"	93HD · D 2 - 6 、 7 、 45 、 91	
24	"	"	"	"	ch、白、qt、ho	砂	少	93HD · D 3 −12、41	
25	"	"	"	少	白、ch、qt、ho		ごく微量	93HD · D 3 -40	
26	"	"	"	"	ch, qt, ho	砂		93HD ⋅ D 3 −19	
27	"	"	"	"	ch、白、qt	砂	ごく微量	93HD · D 3 — 13	
28	"	"	"	"	ch、白、qt、ho		"	93HD ⋅ D 2 − 10	
29	"	"	"	少~有	白、灰、 ch、qt		少	93HD ⋅ D 1 − 3	
30	"	"	"	少	ch、白、灰、qt	砂	"	93HD · D 1 - 7 、11	
31	"	"	"	"	白、qt、ho	砂	ごく微量	93HD · C12 – 5	

### (注)砂粒の記号

qt 石英、ho 角閃石、au 輝石類、hy シソ輝石、bt 黒雲母、mg 磁鉄鉱、fl 長石類、白 白色岩片、赤 赤色岩片、灰 灰色岩片、茶 茶色岩片、黒 黒色岩片、ch チャート、高 高温型石英を含む、砂 水磨された砂の粒子を含む

## Ⅱ 東裏遺跡町道柴山線地点の発掘調査

### 1 概要

遺跡所在地

長野県上水内郡信濃町大字柏原字東襄

調査主体

信濃町教育委員会

調査面積

 $450 \, \text{m}^2$ 

調查期間

1999 (平成11) 年4月23日~6月8日

調査目的

町道柴山線の建設工事に伴う発掘調査

### 2 遺跡の位置

柏原の南部、伊勢見山の南麓を南西に流れる細谷沢と 鳥居川の合流点付近に発達する小規模な段丘面に立地す る。南側には信濃町役場方面から小さな沢が開析してお り、さらに南隣のやせ尾根状の段丘先端部には東裏城跡 が位置している。

### 3 調査の概要

川沿いの畑地で、古間上島団地に通じる町道柴山線を 建設することになり、発掘調査をおこなった。

調査主体者 信濃町教育委員会 教育長 小林 豊雄 事 務 局 総務教育課長 北村 敦博

係 長

北村 恭一

係

池田 昭博

調査担当者 中村 由克

調查参加者 青柳 成子、麻田 紀子、荻原 敬蔵、

落合 春人、金子 房江、北村フクコ、 木村キミ子、駒村 幸男、小林 栄子、

小林 正義、佐藤 道子、佐藤 儀信、

渋沢ユキ子、高橋 是清、東 貢、

深沢 政雄、藤田 桂子、松木由美子、

油井 京子

### 調査経過

4月21日 工事地域の表土剥ぎ開始。

4月23日 発掘調査開始。

5月10日 測量、グリッド設定。

5月13日 杉久保遺跡より作業員増員。発掘地の拡張。

5月17日 東裏遺跡個人住宅の発掘へ作業員一部移動。

5月18日~遺物測量、図化、取り上げ。

5月21日 試掘開始。

5月31日 一部拡張。

6月4日 発掘作業終了。

6月8日 測量、図化完了。発掘調査終了。引渡し。

### 4 遺物の出土状況。層位

### 1) 出土状況

発掘地の西側と東側に遺物の集中区が確認された。遺 構はなく、遺物は散布の状態で出土した。

東部では、20K区のA1~D3 グリッドに、遺物が多いがやや散在的である。これに対して西部では、181 区 F1 グリッド、I3 グリッド、183 区 C4  $\cdot$ 5 グリッドなどに遺物の集中地点が認められる。

### 2)層位

約60cmの埋土(客土)の下、表土(耕土)20cm、黒色 火山灰層32cm、7cmのヌカ I 火山灰層(A T)をはさむ 厚さ33cmの火山灰質シルト層からなる上部野尻湖層 II 相 当層、その下位に41cm+の上部野尻湖層 I 相当層が調査 地域内ではみられる。

縄文時代早期の遺物は、上下に2分される柏原黒色火 山灰層の境界付近に多く出土した。

### 5 出十遺物

#### 1)縄文土器など

縄文時代早期の沈線文系土器がまとまって出土し、ほかに、後期のものがわずかにみられる。

沈線文系土器は、概して薄手のものが多い。細めの沈線文を施された土器と条線文が施された土器がある。沈線文のものは、平行しない沈線で扇形の模様をえがくもの  $(1\sim4)$ 、平行する沈線で横位、縦位に区画し、その間に斜位の沈線をひくもの  $(5\sim9)$ 、口縁に爪形の刺突列をつけ、その下に斜位の沈線を引くもの  $(10\sim14)$  がある。条線文を施すものには、縦位区画をおこない、横位、斜位に条線をひき、空白部に櫛歯状工具で刺突を充

填するもの (15~21)、棒状工具による刺突が施されるもの (22~29)、条線文のみのもの (30~40) などがある。 41は、無文土器である。胎土に繊維を多く含む。42は、単節RL-LRの原体を交互に回転した羽状縄文土器である。底部付近には、条痕が施されていて、下底に穴が穿たれている。胎土には、繊維を多く含む。ともに、縄文時代早期末の条痕文系土器と思われる。

43は、縄文時代後期の磨消縄文土器である。 44は、弥生時代の土器である。

### 2) 石器

石器は70点出土した。石鏃 4 点 (黒曜石)、石匙 1 点 (無斑晶質安山岩)、スクレイパー 2 点、(黒曜石、無斑晶質安山岩)、剥片39点、石核 2 点 (シルト岩、無斑晶質安山岩)、特殊磨石 4 点、凹石 3 点、磨石 6 点、石皿状礫 2 点、敲石の可能性のある小円礫7点などである。

#### 3) その他

江戸時代後期の染付1点、近現代の陶磁器14点などがある。

### 6 まとめ

柴山線地点は、東裏団地地点と開析され始めた狭い低地をはさんで隣接した位置にある。出土遺物も同様に縄文時代早期中葉の沈線文系土器が中心である。柴山線地点の方は、沈線文でもやや後出のものである。また、縄文後期、弥生時代など、その後の時期の遺物もわずかながら出土している。

柴山線地点、東裏団地地点ともに沈線文系土器がまとまってえられており、上山桑A遺跡の出土品をあわせて見ると、当地域の縄文時代中葉の土器変遷の全体像が把握できるようになった。

表3 東裏遺跡 町道柴山線地点の出土遺物点数

種類	石 器 (剥片石器)	剥片·石核	礫石器	縄文土器	弥生土器	古代土器(土師器)		近世〜近代	近現代 陶磁器	<b>礫・</b> その他	合 計
点数	7	41	22	883	5	8	1	3	17	85	1,072

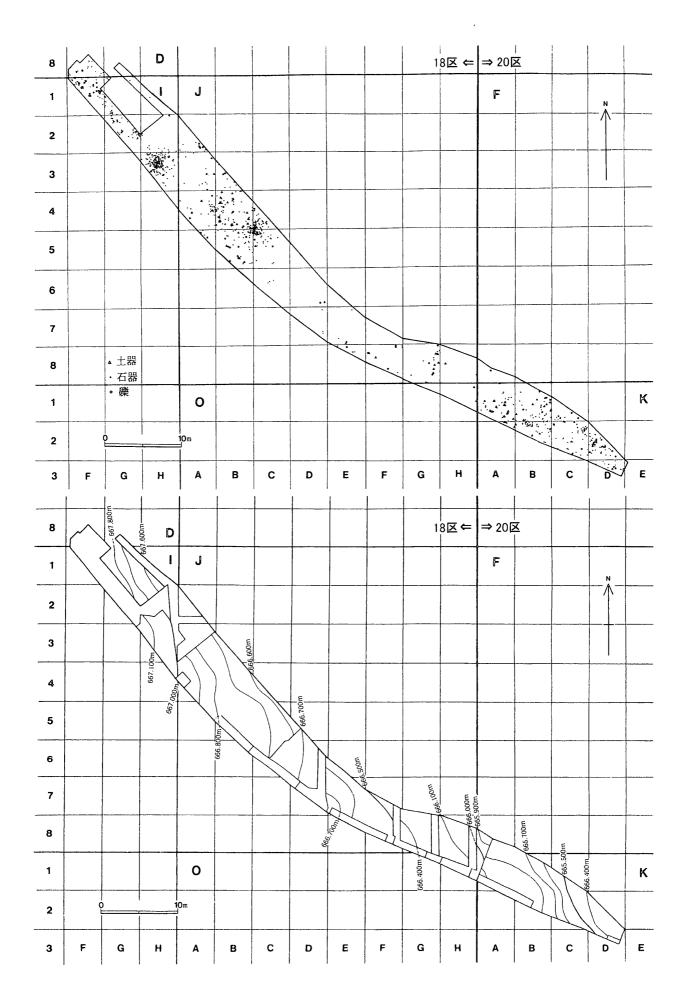


図7 東裏遺跡町道柴山線地点の出土遺物の分布(上)と調査区(下)



図8 東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文土器1 早期・沈線文系土器

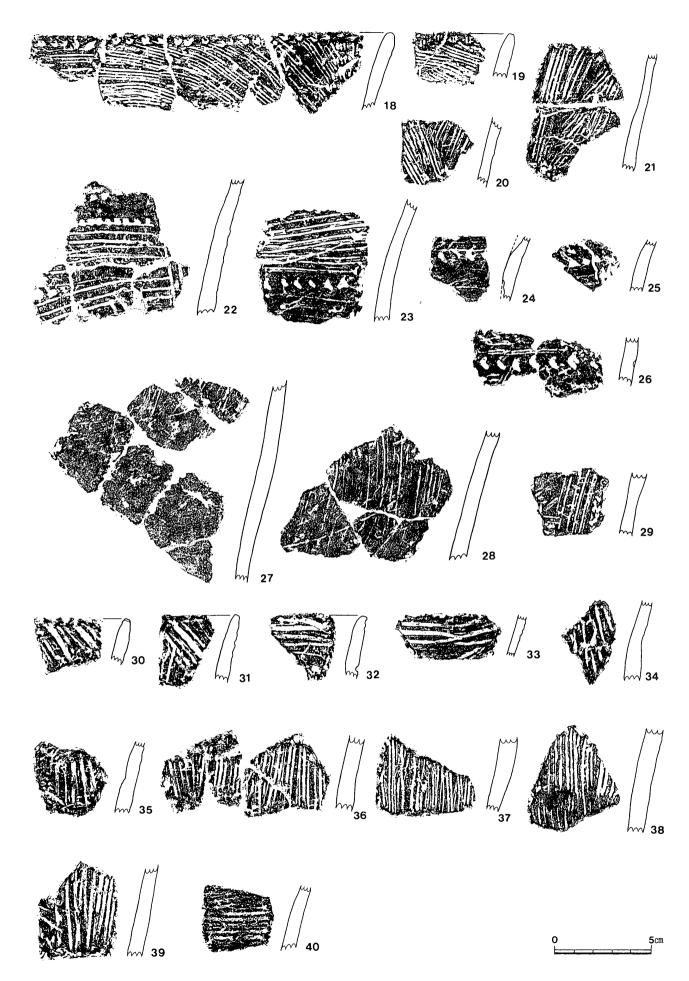


図9 東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文土器2 早期・沈線文系土器



図10 東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文土器 3 早期・後期・弥生土器

表 4 東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文土器一覧

Na	時期	↑ ☆様・☆様栗麦			胎 土	」 繊維視 7 阜	海 物 采 与	備考
IAO	时 荆	文様・文様要素		量	砂粒の種類	- 繊維混入量	遺物番号	1州 考
1	早期後葉	沈線文Ⅱ	沈線文	少~有	qt、白、fl、ho	有	99HU · 20KB 2 —45	
2	"	"	"	有	"	"	99HU · 20KB 2 —46	高温型石英
3	"	"	"	少~有	"	"	99HU · 20KB 2 —47	
4	"	"	″	やや多	"	"	99HU · 20KB 2 — 9	
5	"	沈線文 その他	沈線文	有~ やや多	白、qt、mg	やや多	99HU · 18JC 5 —37	高温型石英
6	"	"	"	"	白、qt>ho	"	99HU · 18JC 5 - 38、99HU · J · D 5 - 1	
7	"	"	"	やや多	白、qt	多	99HU · 18JB 5 -45	
8	"	"	"	"	白、qt、ho	やや多	99HU · 18JC 5 - 18	
9	,	,	沈線文、刺突文	有~	白、qt、mg	多	99HU · 18JB 4 -85	
10	,	"	刺突文、沈線文	"	"	有	99HU · 20KC 2 - 14	<del> </del>
11	,,	"	"	やや多	白、qt、ho	,,	99HU · 20KC 2 — 8	
12	,	,,	"	"	白、qt、ho、Mg	,	99HU · 20KD 2 - 66	
13	"	,,	"	"	白、gt、ho	,	99HU · 20KC 2 — 9	<del>                                     </del>
14	,,	,	"	"	/	,,	99HU · 20KC 1 — 4	
						<u> </u>	99HU · 18IH 3 — 6 , 97 , 108 , 112 , 133 ,	
15	"	沈線文Ⅱ	条線、刺突文	少	,	有~やや多	186、200他	
16	"	"	"	"	白、qt、ho、bt	やや多	99HU·18IH3-46、62、65、87、93、121、 150、155他	
17	"	"	"	"	白、qt、mg、ho	,,	99HU · 18IH 3 - 34、59、75、184、202、 205	
18	"	"	"	"	白、qt、ho	有~やや多	99HU · 18IH 3 - 70、135、162、189、194	
19	"	"	"	"	白、mg、ho、fl	"	99HU · 18IG 2 — 8	
20	"	"	"	"	白、qt、ho、mg	有	有 99HU·18IH 3 - 12	
21	"	"	"	"	qt、白	有~やや多 99HU・18IH 3 - 123		
22	"	"	沈線文、刺突文	有~ <i>やや</i> 多	白、qt、ho、mg	"	99HU · 20KD 2 — 32、38、40、49	高温型石英
23	"	"	"	"	ch、白 砂	多	99HU · 18JC 4 、23、46	
24	"	"	"	有	"	有~やや多	99HU · 18JC 4 —44	
25	"	"	"	有~ <i>やや</i> 多	qt、白、ho	"	99HU · 20KD 2 — 6	
26	"	,	"	"	ch、qt、mg 砂	やや多	99HU · 18JC 4 - 26、28	1
27	,	,	"	"	ch、qt、自 砂		99HU·18JB4-76、102、99HU·18JC 4 -17、 45、99HU·18JC 5 - 1、56	
28	,,	"	"	有	ch、白 砂	,,	99HU · 18JC 4 - 29、31	
29	,	,,	"	,	/	,,	99HU · 18JC 5 - 4	
30	,	,		少	白、qt、ho	有	99HU · 18IF 1 — 8	高温型石英
31	,	,	/	"	// dt 110	//	99HU · 18DF 8 -23	問個選門人
32	,,	,	"	有	gt、白、ho	,,	99HU · 20KD 2 - 8	高温型石英
33	,	"	 条線	少~有	白、灰、ho	有~やや多	99HU · 18JB 4 -58	INTIMEZE III X
34	"	"	条線、刺突文	イ 有~ やや多	gt、白、ho、	"	99HU · 18JC 5 - 35	高温型石英
35	,	"	 条線	少少	白、ho、mg	やや多	99HU · 18IF 1 -22	
36	"	"	/ 水豚	有	ch、白 砂	有~やや多	99HU·18JC 4 - 2 , 99HU·18JC 6 - 2 , 3	
37	,	,	"	少~有	ch、ch、ho 砂	少	99HU · 18IG 2 - 17	<del> </del>
38	,	,	,,	有	ch、白、qt、ho 砂	"	99HU · 18IF 1 - 20	1
39	"	,	"	やや多	白、qt、ho	有	99HU · 20KD 2 - 36	高温型石英
40	,	,	,,	有	/ dr. 110	//	99HU · 18IH 3 — 127	
41	,	条痕文	無文	きわめ て少	*	やや多	99HU · 18IH 3 -14、17、63、136、142、144、151、153、157、163、176、177、180、181、182、198、206	
42	,	"	羽状縄文、 条痕文	少	ch、qt 砂	多	99HU · 20KD 2 - 9 、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、23、29、53、54、55、56、57、58、59、60、62、63、65、67、68	
43	後期	磨消縄文		やや多	白、qt、bt、fl		99HU·18IF1 - 5 、 6 、 7	
44	弥生			少	灰、白、黒、 砂		99HU · 18DF 8 —11	

(注)砂粒記号は、表2(P7)と同じ



1 東裏遺跡東裏団地地点の発掘調査 南方をのぞむ



2 遺物集中区が2か所に検出された



3 縄文時代の遺物集中区 D2区



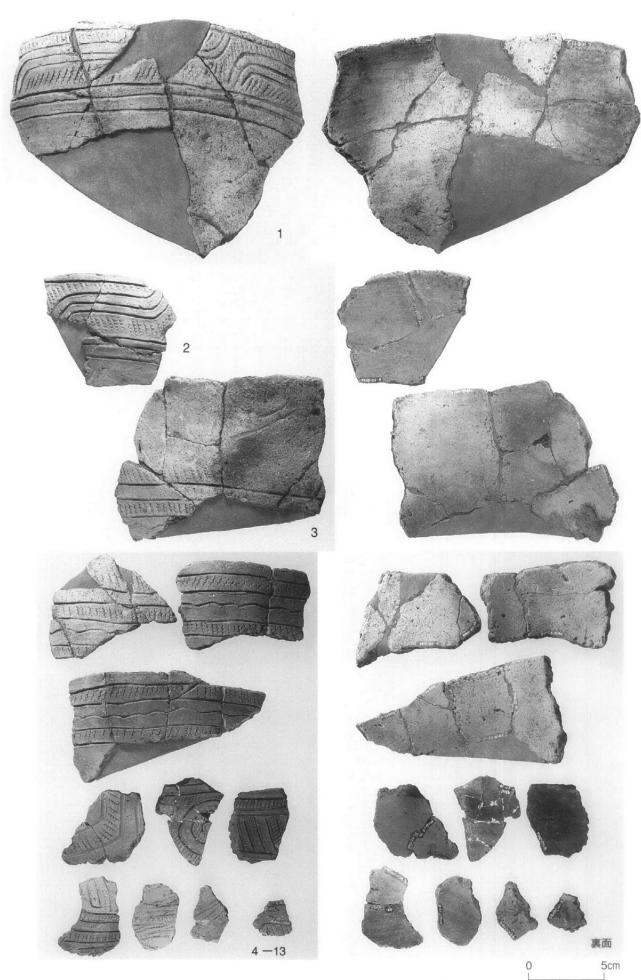
4 縄文時代早期の沈線文土器の出土状況



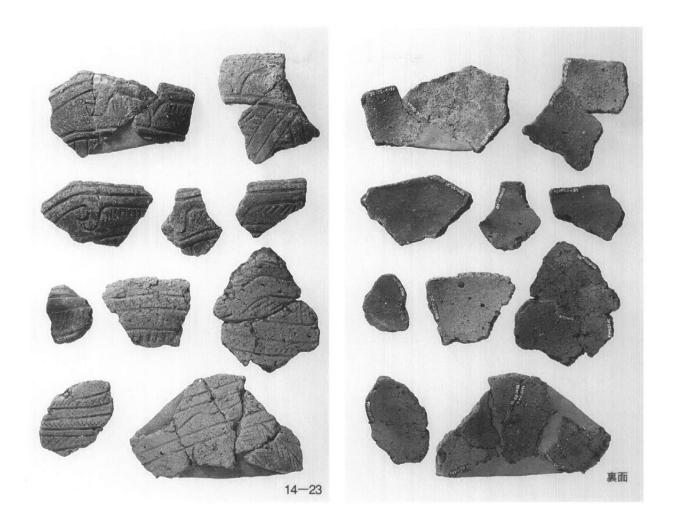
5 沈線文土器

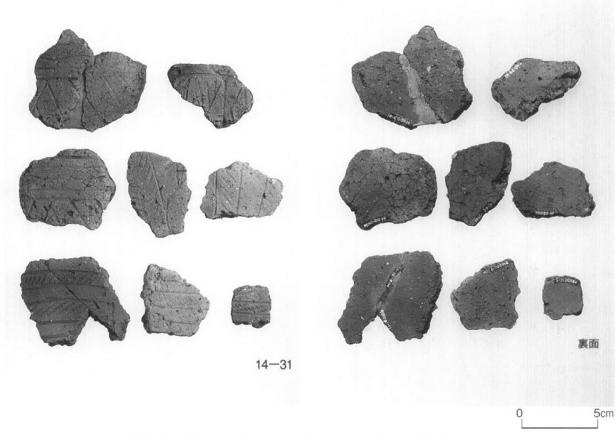


6 沈線文土器

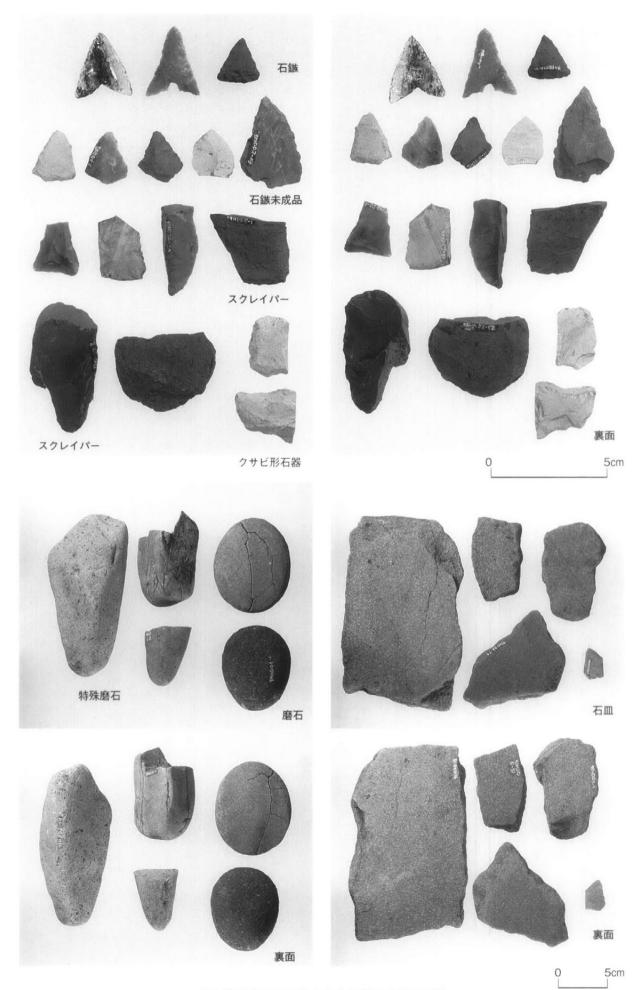


東裏遺跡東裏団地地点出土の縄文土器1 早期・沈線文系土器





東裏遺跡東裏団地地点出土の縄文土器 2 早期・沈線文系土器



東裏遺跡東裏団地地点出土の縄文時代の石器



1 東裏遺跡町道柴山線地点の発掘風景 役場側(北西)をのぞむ



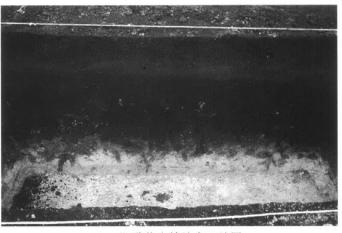
2 町道柴山線地点 細谷沢 (南東) をのぞむ



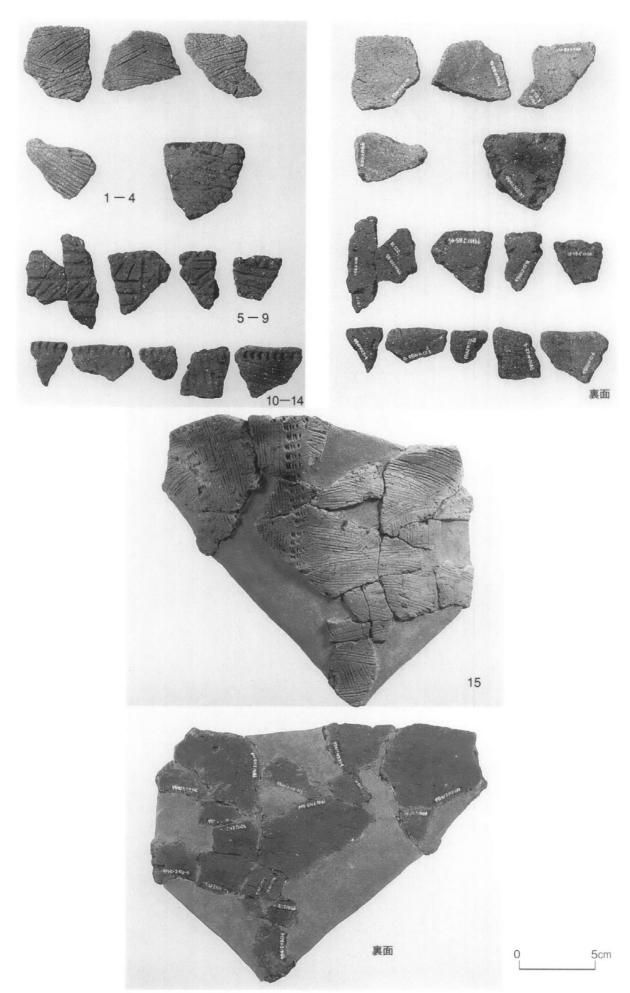
3 町道柴山線地点 東部 (20 K区) の遺物出土状況



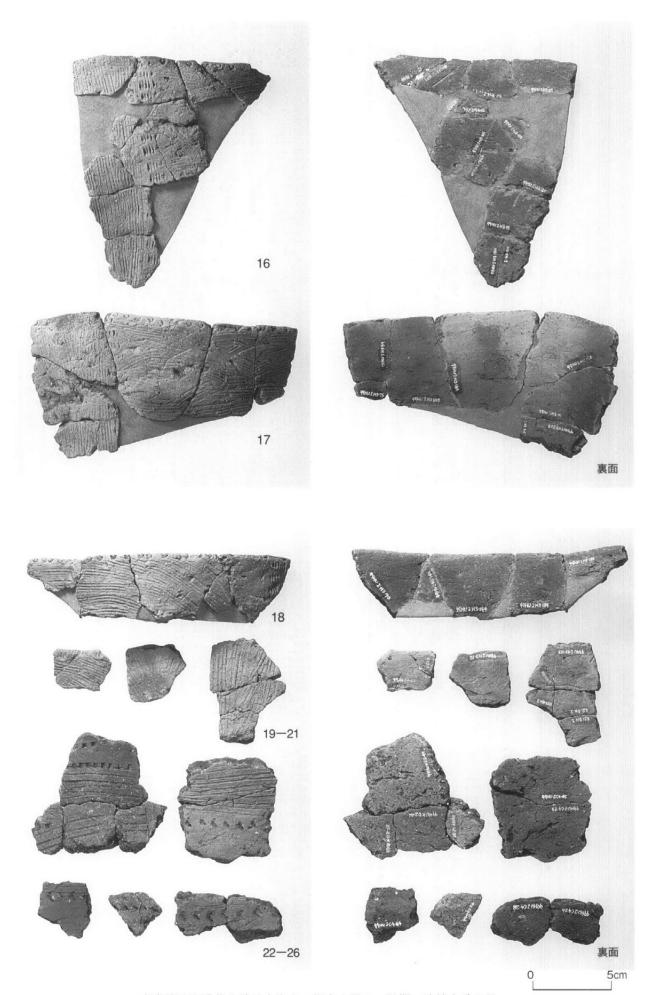
4 町道柴山線地点 西部 (18 I・ J区) の遺物出土状況



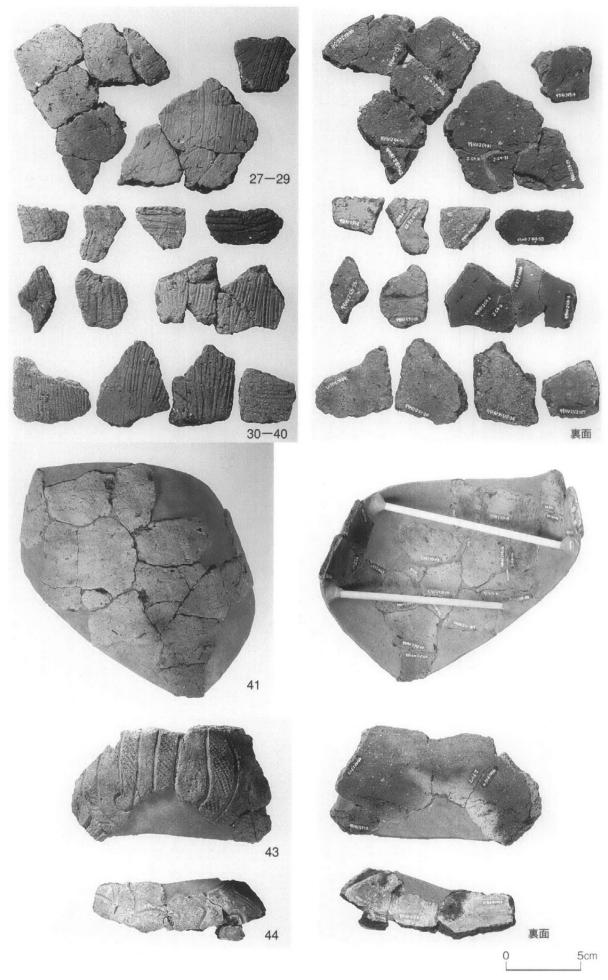
5 町道柴山線地点の地層



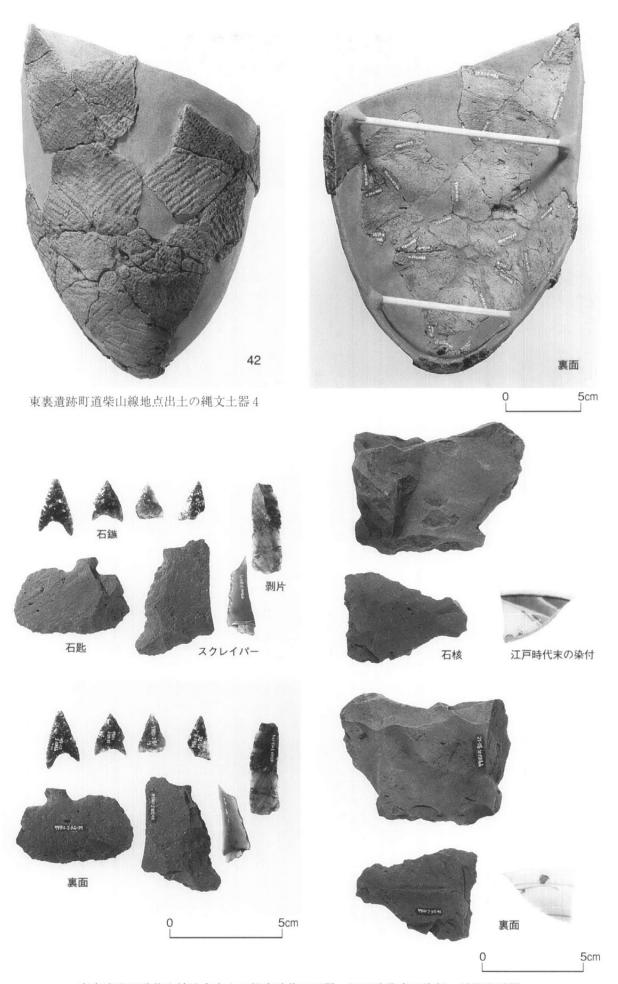
東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文土器1 早期・沈線文系土器



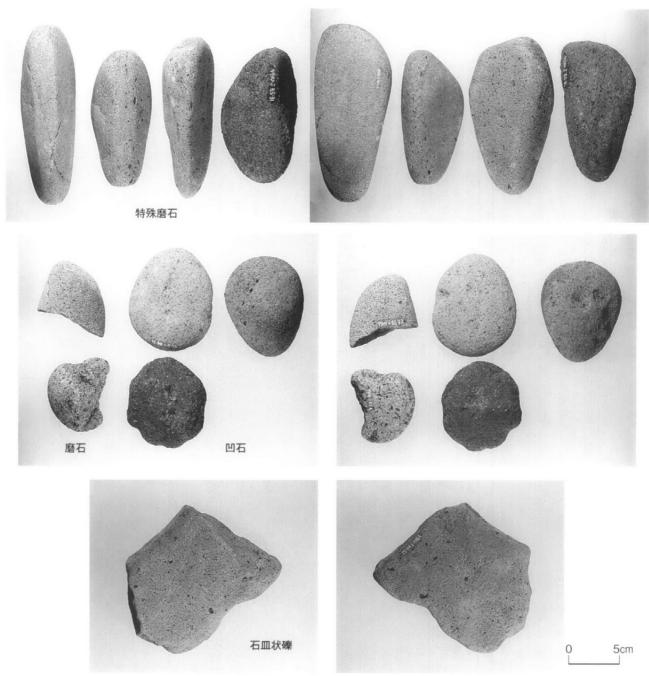
東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文土器 2 早期・沈線文系土器



東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文土器 3 早期・沈線文系土器 (27-40)、その他



東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文時代の石器、江戸時代末の染付、近世陶磁器



東裏遺跡町道柴山線地点出土の縄文時代の石器



東裏遺跡東裏団地地点出土の 近世陶磁器

上3点 江戸時代末の染付 中・下 明治時代初の染付

5cm

### 報告書抄録

				******										
書 名	東裏遺跡東裏団地地点・町道柴山線地点発掘調査報告書													
副書名	縄文早期・	沈線文系土器の	遺跡											
シリーズ名	信濃町の埋	蔵文化財												
シリーズ番号														
編著者名	中村 由克	中村 由克												
編集機関	信濃町教育委員会													
所 在 地	〒389-1305	長野県上水内	郡信濃町柏	白原428- 2	TEL	: 026-2	55 – 5923							
発行年月日	西暦 2004	年 3 月31日												
ふりが	なふ	りがな	П	- <b>к</b>	北緯	東 経		調査面積						
所 収 遺 跡:	名 所	在 地	市町村	遺跡番号	0, "	. , "	調査期間	m³	調査原因					
東裏	長野県	トル内郡信濃町	205834	70	36度	138度	19930920~	700	宅地造成					
ひがしうらだんち ちてん東 裏団地地点	大字柏原字東裏				48分	12分	19931105		町道建設					
					02秒	47秒			!					
東裏	"		"	"	"	"	19990423~	450	町道建設					
5ょうどうしばやません 5町 道柴山線地	点						19990608							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主	な遺	物	特	記事	項					
東裏	散布地	縄文時代	なし	総出土	総出土数 510点 糸		縄文時代早期中葉の土器がまと							
東裏団地地点		早 期		縄文土	縄文土器 391.		まって出土し、北信地方における							
				石器	石器 43点		沈線文系土器の様相が明らかと							
				江戸末	染付	3点	なった。							
				明治初期染付 6点										
東裏	"	縄文時代	なし	総出土	数	1,072点	縄文時代早期中葉の沈線文系		泉文系土器					
町道柴山線地点	Ĩ.	早期・後期		縄文土	器	864点	がまとまって出土した。							
		弥生時代		石器		70点								
		古代		弥生時		5点 ·								
				古代土	師器	8点								
					いご羽口	3点								
				江戸後	期染付	1点								

### 信濃町の埋蔵文化財

### 東裏遺跡東裏団地地点。 町道柴山線地点発掘報告書

-縄文早期・沈線文系土器の遺跡-

編集発行 信 濃 町 教 育 委 員 会 長野県上水内郡信濃町柏原428-2

発行日 2004年3月31日

印 刷 信每書籍印刷株式会社

[この報告書についての連絡先]

### 野尻湖ナウマンゾウ博物館

〒389-1303 長野県上水内郡信濃町野尻287-5

TEL 026-258-2090 FAX 026-258-3551

# Higashiura Site

Excavation of a Initial Jomon Site

2004

Shinano-machi Board of Education, Kamiminochi-gun, Nagano, 389-1305 Japan.